

論 点

1 現状認識と議論の進め方

- ① 京都市財政は、歳入・歳出両面において、他の政令指定都市と比べて著しく硬直化が進んでおり、このまま放置すれば、財源不足が拡大し、極めて深刻な事態を招くことは必定
- ② 京都市財政の構造的な課題と現状等について分析を行い、市民にも明らかにしたうえで、事務事業見直し等の取組とも並行して、速やかに抜本的な改革を進めるべき
- ③ 施策推進に当たってのコストと効果、公と民との役割分担、財政力と行政水準、低成長・少子高齢化時代の財政運営のあり方などについて、京都市の都市としての特性やこれまでの取組も踏まえて、市民が納得できる形で議論を深め、改革の方向性を示す
- ④ また、市税や地方交付税等の歳入確保について検討を行い、議論の過程で明らかになった国の地方財政制度の課題についても、必要に応じて提言を行う
加えて、京都府と京都市との財政面での関係についても検討する
- ⑤ 併せて、抜本的な改革の効果が収支に現われるまでの間、市民サービスの水準を可能な限り維持するためにも、内部経費の節減努力を重ねつつ、恒常的な財源不足に対応するための特別の財源対策を検討することも必要
- ⑥ 市財政全体の特徴を踏まえて、論点ごとに焦点を絞った点検を行う。

2 有識者会議での現時点における論点及び審議の順序

本日の審議での論点

- 低成長・少子高齢化時代，地域主権時代の受益者負担や公共投資のあり方の点検・検討

次回審議での論点

- 人件費，業務委託費等のあり方の点検・検討

次々回以降の審議における論点

- 扶助費，医療費など社会福祉関係経費のあり方の点検・検討
- 資産の有効活用のあり方の点検・検討
- 公有財産の最適管理についての検討
- 市税，地方交付税等の歳入確保についての点検・検討
- 税収増のための根本的な対策，国，京都府との財政面の関係についての検討